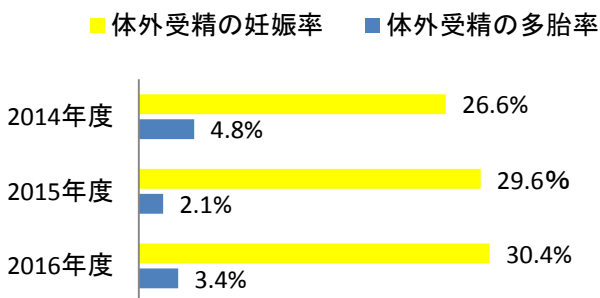
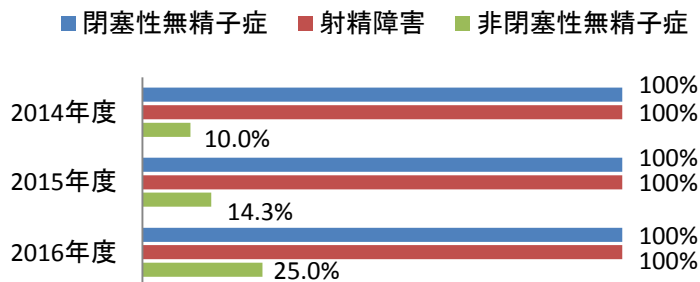


体外受精の妊娠率



無精子症に対する精巣内精子採取術 (TESE)による精子回収率



体外受精の妊娠率 = IVF-ET を行った件数を妊娠数で除した件数

体外受精の多胎率 = IVF-ET で妊娠した件数のうち多胎となった件数

■ 虹クリニックと荻窪病院の連携を通じて不妊治療を推進

荻窪病院は不妊治療に積極的に取り組んでおり、産婦人科及び泌尿器科が連携した診療と 2008 年に開設した不妊治療専門のクリニックである「虹クリニック」で体外受精による治療を行っております。

体外受精—胚移植法 (IVF-ET In Vitro Fertilization-Embryo Transfer) とは、経膈的に超音波下で卵胞から卵を吸収し (採卵)、培養器内で精子を培養液の中に加え (媒精) あるいは精子 1 個を卵子内に直接注入し (顕微受精)、受精して分割を始めたものを選別し、受精卵を子宮内に移植する方法です (胚移植)。

胚移植時の方法としては、そのままの胚 (新鮮胚) と凍結した胚 (凍結胚) を使う方法があります。

虹クリニックでの体外受精における妊娠率は 3 ヶ年で平均して 28.9% で、2016 年度から胚を培養器から取り出すことなく撮影できるタイムラプスモニタリングシステムを導入する等、妊娠率の向上に努めています。

なお、妊娠率と多胎率について日本産科婦人科学会が集計する「平成 28 年度倫理委員会 登録・調査小委員会報告」※1 では、凍結胚移植を行った場合の移植当たり妊娠率は 33.2%、多胎率は 3.2% という結果が報告されています。

TESE とは男性不妊治療で行われる手技で無精子症や射精が出来ない男性パートナーから直接精子を採取 (TESE) し凍結保存の上、女性パートナーの卵と体外で顕微受精させ受精卵を子宮に移植する治療法です。一連の治療は荻窪病院の泌尿器科と虹クリニックとで緊密な連携を取りながら実施しています。

※1 日本産科婦人科学会 「平成 28 年度倫理委員会 登録・調査小委員会報告」表 8 凍結胚を用いた治療成績 (2015 年)

<http://fa.kyorin.co.jp/jsog/readPDF.php?file=69/9/069091841.pdf>